

『medium 霊媒探偵城塚翡翠』 相沢 沙呼 著 講談社 (分類:Fア)

推理作家として難事件を解決してきた香月史郎は、心に傷を負った女性、城塚翡翠と出逢う。彼女は霊媒であり、死者の言葉を伝えることができるが、そこに証拠能力はない。一方、巷では姿なき連続殺人鬼が人々を脅かしている…。



『発注いただきました!』 朝井 リョウ 著 集英社 (分類:Fア)

キャラメルが登場する掌編、「ウイスキーっておもしろい」を伝えられる小説、「女性と香り」にまつわるミニエッセイもしくは小説…。企業からのお題をもとに書いた作品を、解説とともに収録する。



『生きつづけるキキ ひとつの『魔女の宅急便』論』

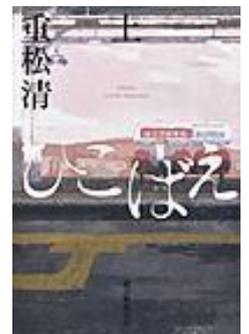
齊藤 洋 著 講談社 (分類:Fサ)

発行以来 30 年以上経っているにもかかわらず、書店の棚に残りつづけている角野栄子著「魔女の宅急便」。その理由はどこにあるのか? 現代読者にとっての意味や価値に「ルドルフとイッパイアッテナ」の作者・齊藤洋が迫る。



『ひこばえ 上・下』 重松 清 著 朝日新聞出版 (分類:Fシ)

洋一郎が2年生の時に家を出て行った父親。郊外の街で一人暮らしを続けた末に亡くなった父親は、生前に1冊の「自分史」をのこそうとしていた。洋一郎は父親の人生に向き合うことを決意するが…。『朝日新聞』連載を単行本化。



『線は、僕を描く』 砥上 裕将 著 講談社 (分類:Fト)

両親を事故で失い、喪失感の中にあつた大学生の霜介は、バイト先で水墨画の巨匠・篠田湖山と出逢った。なぜか湖山に気に入られた彼はその場で内弟子にされてしまうが、湖山の孫・千瑛は、それに反発し…。



『チーム3』 堂場 瞬一 著 実業之日本社 (分類: Fド)

東京オリンピック前、マラソンでメダルを期待されている日向はスランプに陥っていた。引退した山城に、コーチとして白羽の矢が立つ。箱根駅伝で伝説を作った男は、大ピンチを救えるかー!?



『流浪の月』 風良 ゆう 著 東京創元社 (分類: Fナ)

愛ではない。けれどそばにいたい。再会すべきではなかったかもしれない男女がもう一度出会ったとき、運命は周囲の人を巻き込みながら疾走を始める。新しい人間関係への旅立ちを描いた長編小説。



『店長がバカすぎて』 早見 和真 著 角川春樹事務所 (分類: Fハ)

谷原京子、契約社員、時給 998 円。店長が、小説家が、弊社の社長が、営業がバカすぎて「マジ辞めてやる！」でも、でも…。本を愛する書店員の物語。『ランティエ』連載を加筆し書籍化。



『嫁ぐ日 狸穴あいあい坂 4』 諸田 玲子 著 集英社 (分類: Fモ)

失意の中、麻布狸穴町の祖父宅に娘と出戻った結寿。初恋の人・八丁堀同心の妻木と再会し、彼女の心がふたたび動く…。恋と事件の連作時代小説。『小説すばる』掲載に書下ろしを加えて単行本化。



『ザリガニの鳴くところ』

ディーリア・オーエンズ 著 早川書房 (分類: Fワ)

家族に見捨てられながらも、広大な湿地でたったひとり生きる少女に、ある殺人の容疑がかかり…。みずみずしい自然に抱かれて生きる少女の成長と不審死事件が絡み合い、思いもよらぬ結末へと物語が動き出す。



『旅ごはん』 小川 糸 著 白泉社

(分類:914 オ)

リトアニアのピンクのスープ、アーティチョークのオムレツ…。おいしいひと皿には、忘れられない人との出会いがある。旅先の食の思い出を綴ったエッセイ集。『MOE』連載を書籍化。



『いつでも母と』 山口 恵以子 著 小学館

(分類:914 ヤ)

最愛の母が認知症に。やがて始まった介護と自宅での看取り…。いくつもの後悔と色褪せない幸せな思い出。いつでも二人三脚で生きてきた独身の娘と老い衰えていく母の軌跡を綴る。『女性セブン』連載を再構成し加筆修正。



『心の傷を癒すということ 大災害と心のケア』

安 克昌 著 作品社

(分類:493 ア)

PTSD(心的外傷後ストレス障害)に苦しむ阪神大震災の被災者の「心の叫び」と、自らも被災しながら取り組みつづけた精神科医による臨床報告。著者と関係の深かった人々の文章を加えた新增補版。

